

「はいすくーるおすすめ本 50 選」優秀作品

(氏名の有無は本人の希望による)

『朝が来る』 辻村 深月 著

子育て、血の繋がりに、特別養子縁組という重いテーマに鋭い痛みが突き刺さり、うずくまりそうになるけれど、その先に眩しい光と共に朝がくる。人間の闇を照らすようなこの作品は他人事とは思えないから、尚更深く心に沁みました。母親になった辻村深月だからこそ書けた作品なんだと思いました。

彦根翔西館高等学校 1年生

『Another』 綾辻 行人 著

田舎に引っこしてきた主人公。その中学校の“3年3組”は“呪われた”クラスだった。クラスの中にまぎれている“死者”は誰なのか。今年の“災厄”を止めるためクラスみんなが動き出す。

国際情報高等学校 3年生

『orange -オレンジ-』 高野 莓 著

高校二年生の春、十年後の未来の自分から菜穂宛てに一通の手紙が届きました。「二十六歳になった私には後悔していることがたくさんあります。」そこに書かれていたのは、菜穂が転校生の翔を好きになること。そして「十年後の今、翔はここにはいません。翔の事しっかり見ていてあげてください。」手紙を信じた菜穂が、未来を変えるために動き出すという物語です。とても感動する友情・恋愛ストーリーです。ぜひ読んでください。

長浜北星高等学校 1年生

突然朝、私の家に届いた一通の手紙が巻き起こす不思議かつ泣ける、友情ラブストーリーです。このお話は、十年後の自分からの手紙が現代の私の元に届き、その手紙に書いてある十年前の私の後悔を現代の私が同じ過ちを繰り返さないように努力し友情を深めあったりするお話です。

タイムトラベル、未来、現代、友情、恋愛、感動が詰まっているこの小説を一度手に取って読んでみて下さい。

信楽高等学校 2年生

『学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話』 坪田 信貴 著

この本は、映画化もされていて、大ヒットした本です。私からみてもどうしようもないんじゃないか…と思うくらい頭が悪く、ギャルな子が、見間違えるくらいに変わって努力して、ノリで決めた慶應大学に合格するノンフィクションのお話です。

私はこの本を読んで、本当に努力すればどんな風にも変われるし、とても勇気をもらうことができました。

長浜北星高等学校 1年生

『奇人の頭を叩いてみれば』 花子 著

この本は戸島彦という主人公が学園の問題児相手に様々な事件を起こしていく話です。

戸島彦は無表情&敬語で、思ったことはすぐ口にしてしまう「ロボット女」と呼ばれている変わった

人です。でもそのような所が面白く、懂れる部分でもあります。彦が持つ独特な正義感はある人を変えようという力がある、読み進めていくうちに彦の人間性にどんどん魅かれていく作品です。

みなさんもぜひ読んでみてください。

長浜北星高等学校 1年生

『キッチン』 吉本 ばなな 著

老若男女関係なくいつ死がどんな形で訪れるかはわからない。命は永遠ではなく必ず終わる時がある。くさるほどの嫌なこと、絶望的な気持ち、上手くいかないことの方が多く世の中で生きていかなければならない。でも命に限りがあることをどこかで意識することで、生き方を変えることができる。大切な人への思いやり、小さな幸せ、喜び。今の私たちの心にずっと風のように入ってくる物語だ。この本は人の気持ちを楽にさせる力がある。

長浜北星高等学校 1年生

『君の臍臓をたべたい』 住野 よる 著

ある日“僕”は「共病文庫」と書かれた1冊の本に出会う。その本の持ち主は病氣と闘うクラスメイト“山内桜良”。死を目の前にしても1日1日を明るく前向きに生きようとする少女の姿に勇気付けられ、私たちの日々の生き方について考えさせられます。

タイトルに惑わされず、「小説は苦手…」という方にも、ぜひ一度は読んでほしい作品です。読後、きっとこのタイトルに込められた意味に涙すると思います。

守山高等学校 3年生

主人公はある日病院に行った時、手書きで書かれた1冊の本を見つけます。そこで、いつも元気で明るいクラスメイトの山内桜良が臍臓の病でもうすぐ死ぬことを知ります。そこから、まったく関わり合いが無く、性格も反対な二人の奇妙な関係が始まります。この二人の関係から、命の重みや日々生きていくことへの幸せ、人を愛し大切に思うことの本当の意味など多くのことを学ばせてくれる作品になっています。

小森 貴晴 さん 東大津高等学校 2年生

私の紹介したい本は住野よるさんの『君の臍臓をたべたい』です。この本は昨年度の本屋大賞にノミネートされたことでも話題の作品です。臍臓を食べたいというグロテスクなタイトルとは違い、誰でも手に取りやすく切ない小説です。後半の展開では思わぬ方向に話が進み驚きます。読んでよかったと思えるようなとても好きな小説です。是非一度読んでみてください。

水口高等学校 3年生

『境界の彼方』 烏居 なごむ 著

この作品は、異界士と呼ばれる特殊な能力を持つ存在が、妖夢と呼ばれる人間に害を及ぼす存在と戦う物語。主人公の神原秋人は、人間と不死身の妖夢の間に生まれた稀有な存在。そんな秋人がある日、今にも校舎の屋上から飛び降りそうな少女、栗山未来を見つけ助けようとする。しかし彼女は妖夢を討伐し生計を立てる異界士だった。作者の考える個性豊かなキャラ達。虐げられてきた半妖の秋人の変化が見所の感動作品です。

北村 純 さん 長浜北星高等学校 1年生

『高校時代にしておく50のこと』 中谷 彰宏 著

何か挑戦したいことがあるけれど、踏ん切りがつかない人にお勧めの本です。内容は著者の中谷彰宏氏が高校時代に体験したことや、思い出に残っている出来事、やっておいて良かったことを赤裸々に語っているものです。自身のエピソードを交えて、現代の高校生に対して、数多くのアドバイスをしてい

るのが非常に印象的な一冊でした。読書嫌いの僕でもすぐに読み上げてしまうほど読み易く、とても面白い本なので、是非読んでみてください。

守田 元也 さん 守山高等学校 1年生

『サラバ!』 西 加奈子 著

何故だか太宰治の『人間失格』を思い出してしまった。人と関わるのが苦手で常に道化を演じる悲しい主人公。本書の主人公坏歩も似た一面をもつ。家庭の事情から人目を気にし、流れに任せて生きる。そんな彼の順調な人生は三十代から狂い出す。『人間失格』と本書のテーマには人を共感させる共通項がある。違う点は、本書には「サラバ」という一つの救いがある点。ぜひ、自分の目で「サラバ」とは一体何なのか、確かめてください。

守山高等学校 2年生

『純喫茶「一服堂」の四季』 東川 篤哉 著

人見知りの美人店主、安楽椅子が営む純喫茶「一服堂」。珈琲の味はいまひとつだが、客が話す奇妙な猟奇殺人を、自虐ネタとともに解決していく。春夏秋冬それぞれの殺人事件はどれも特徴があり、難解だがヨリ子さんに話すと性格が急変。いつも丁寧な言動が荒々しい言動へと変化し、ずばずばと物を言って誰も予想しなかった真実へと導いていく姿は圧巻です。

守山高等学校 2年生

『小説君の名は。』 新海 誠 著

田舎に暮らす女子高生三葉は、自分が男の子になる夢を見る。東京で暮らす男子高生瀧も自分が女子高生になる夢を見る。二人は夢の中で入れ替わっていることに気付く。しかし、その入れ替わりは突然途絶えてしまう。3年前の隕石によって三葉の暮らす町は消滅していた。町を救うため瀧はある計画を思いつく。月日が経ち入れ替わっていたことも忘れていたある日、再びお互いが出会う。映画化もされているのでぜひ読んでみてください。

日野高等学校 1年生

『植物図鑑』 有川 浩 著

「お嬢さんよかったら僕を拾ってくれませんか？」この物語りはそんな言葉から唐突にはじまりを告げる。何の変哲もない毎を送る平凡な主人公がある日、“拾った”のは他の人よりも随分植物に詳しい男。今年実写映画化もされたこの作品はその名の通り物語に沢山の植物がでてくる。純粹で温かくても少し切なくてちょっぴり勉強にもなるこのお話。今恋をしていない人もしている人も読めばきっと心の奥がぎゅっと温くなる。

内田 光咲 さん 守山高等学校 1年生

『白ゆき姫殺人事件』 湊 かなえ 著

「白ゆき姫殺人事件」とネット上で呼ばれる美人OL殺害事件が起こり、関係者の証言で物語は進められていきます。そして、一人の女性が容疑者にあがり、週刊誌の記事や「噂」も相まってネットは炎上。果たして犯人は彼女なのか？最後まで謎が謎をよび、見逃せないおもしろさがあります。また、女同士の「噂」やネットの怖さがかかれていますので、現代の高校生にぜひ読んでほしい本です。

久保田 夢 さん 守山高等学校 1年生

『新・食べるな、危険!』 食品と暮らしの安全基金 著 小若 順一 著

この、『新・食べるな、危険!』という本は、私達が普段何げなしに食べている食材の危険性が細か

く書かれています。

私は前から添加物や合成着色料に興味がありましたが、この本を読んでさらに興味が増しました。

食品は毎日食べるものなのでより安心安全なものを選びたいという人にうってつけです。また、食品を買う時に価格だけで決めている人はこれを読むと考え方が変わると思います。

長浜北星高等学校 1年生

『スイッチを押すとき』 山田 悠介 著

青少年自殺抑制プロジェクトである、自殺するためのスイッチを子供に持たせて監禁実験するという現代ではあり得ない設定となっている物語である。極限状態の中7年間もスイッチを押さない子供4人がいた。彼らには、生きたいと願う強い思いがあった。それを聞いた監視員は彼らと脱出を図る。この中で次々と引き起こされる非情な運命…彼らは一体どうなるのか!?最後には驚くべき事実も。絶対に泣けるお話が今、ここにある!!

守山高等学校 2年生

『涼宮ハルヒの憂鬱』 谷川 流 著

この本は、いわゆる「ライトノベル」と呼ばれるものです。ライトノベルにも様々な種類があり、萌えやSF、青春など多種多様に渡ります。しかし、世間一般ではこのライトノベルをオタクの読むものだ!と決めつけられています。そこでこの本を読んでほしいのです。本作品は学園SFと呼ばれるものであり、ただの萌え作品ではありません。よって万人すべての人が楽しめると思います。表紙にだまされず、ほら、さあ読んで。

西村 拓南 さん 守山高等学校 1年生

『世界からボクが消えたなら』 涌井 学 著

感涙のベストセラー原作の映画「世界から猫が消えたなら」を、主人公の飼い猫であるキャベツの視点で描いた、感動の物語。余命わずかと宣告されたご主人さまは、自分と同じ姿をした悪魔と取引をした。「この世界からモノを1つ消す。そのかわりに、キミの命を一日ぶんだけ延ばす」と。電話、映画、時計……。そして悪魔は、世界から猫を消すと提案する。ボクのことなんて消してしまってもいいんだよ、ご主人さま。飼い主の決断とは!?

守山高等学校 2年生

『つぎはぎプラネット』 星 新一 著

星新一といえば、ショートショートという分野を開拓したSF作家だ。そんな作家の単行本未収録作品を集めたのがこの本である。

読み始めてすぐにこの作家の発想力の高さが分かる。人の手先が地上二尺ほどの高さにあるのはなぜかと御隠居さんに問うシーンがある。すると彼は、大昔人しか判らない味がする果実がその高さに浮いていたと答えた。

他にもさまざまな作品が載っているから、星新一の世界観にひきこまれるに違いない。

井上 舜介 さん 守山高等学校 1年生

『強く、しなやかに』 渡辺 和子 著 山陽新聞社(編著)

携帯を使うのではなく、使われているような感じさえする現代、大切なものをたくさん見失っている人も多いのでは?

そんな私達が失いかけているものに、何かしら気付ける作品です。作者の波乱万丈な人生は、奇抜な行動を起こし、努力と責任感で乗り越える強い生き様です。その経験を元に湧き上がる言葉の力は、心を打ち、優しく勇気付けられます。自分自身と向き合うために、心の常備薬として本棚に忍ばせたい一冊です。

松村 歩美 さん 玉川高等学校 1年生

『ディズニープリンセスと幸せの法則』 荻上 チキ 著

この新書は、ディズニー映画の原点と呼ばれる作品から、爆発的ヒットを記録した『アナと雪の女王』までのディズニープリンセスたちの幸せの法則を読み解いていくという一冊になっています。新書という、ジャンルにたじろいでしまう方でも、この本はすらすら読める内容となっています。映画の歴史や、それぞれの幸せの形を知り、自分のお気に入りを見つけてみて下さい。これを読めばまた、ディズニーの魅力に気がつかされます。

荻上 りか子 さん 守山高等学校 1年生

『動物農場』 ジョージ・オーウェル 著 高島 文夫 訳

『動物農場』は、人間が人間を抑圧し、新たな独裁体制に繋がることに強く反対していた、ジョージ・オーウェルの傑作です。人間から搾取されていた動物たちが人間を追い出し、動物農場を建てるというストーリーの中で、権力の墮落と独裁主義、支配する側とされる側の身分階級の形成と搾取について、問題を痛烈に風刺しています。著者が理想としていた、民主的社會主義に対する信念と熱望がきっと垣間見られるはずです。

藤居 恩希 さん 長浜北星高等学校 3年生

『図書館戦争』 有川 浩 著

表現の自由を規制する「メディア良化法」が成立し、あらゆるメディアがとりしまられていく中で、本による表現の自由を守るために発足した「図書隊」と政府のたたかいを描いた物語である。この物語の中で図書隊の間の深い絆、愛、チームワークなど心をうたれる場面が数多く存在する。笑いあり、涙ありの中身の濃い作品になっているので、できるだけ多くの人にこの本をよんでほしい。

守山高等学校 1年生

『謎解きはディナーのあとで』 東川 篤哉 著

この本は、ある屋敷で働く執事が刑事であるお嬢様と共に難事件を解決していくというお話です。

私がおすすめる場面は、お嬢様が執事にばかにされるシーンです。この場面は毎回使われており、執事がお嬢様をばかにするという、現実ではありえないようなこの発想が、ユーモアあっておもしろいと思いました。

この小説はドラマ・映画化もされています。楽しい本なのでぜひご覧ください。

信楽高等学校 2年生

『何もかも憂鬱な夜に』 中村 文則 著

本のはじまりは、「僕」の子ども頃飼っていた小鳥の死からはじまり、刑務官になった「僕」と未決囚「山井」と接する中で自殺した友人などのドロドロとした世界が書かれていて、生と死とは何かをよく考えさせられる物語になっています。読み進めていくうちに、子どもの頃の夢の話や死んだ小鳥につながっていき、とても不思議な気分になりました。死刑制度と重大犯罪にも向き合える長編小説です。

長浜北星高等学校 1年生

『名のないシシャ』 山田 悠介 著

少年は人の「死までの時間」が分かり、命を与える特別な力を持つ『シシャ』という存在だった。感情も知らない少年は人間の少女の玖美に出会い、“テク”という名前をもらう。そして一緒に過ごすうちに少しずつ喜びや悲しみといった感情を知る。しかし少年は人間とは違い、永遠に大人にならない。それにより玖美とは避けられない別れの運命が迫っていた。切なすぎるラストが胸をうつ、ナナシの命と運命の物語。

守山高等学校 2年生

この本は、人間に時間を与えるために生み出された「シシャ」の物語です。最初は人間たちのことを

信用していないシヤたちでしたが、それぞれ特別な人間に出会い、人間たちのことを信頼するようになっていきました。私たちが当たり前のように過ごしている日々を違う角度から見られるような物語になっています。最後には本当に感動できる結末が待っていて、読んだ後に、自分の考え方や行動を変えてしまう何かを感じれるのでおすすめです。

守山高等学校 1年生

『ナミヤ雑貨店の奇蹟』 東野 圭吾 著

「あばらやに行こう」三人の泥棒が転がりこんだのはさびれた雑貨店。そこへ突然「月のウサギ」から奇妙な手紙が届く。それは過去からの手紙だった。このナミヤ雑貨店を舞台に様々な人の悩みや思いが交錯し、思いもよらない結末を迎えます。「夢を追うべきか、諦めて家業をつぐか」など、誰しも抱く悩み相談が出てきます。だからこそ、その回答に思わず涙することも。最後には全ての人の思いがつながる、感動の物語です。

守山高等学校 2年生

悪事をした3人、逃げ込んだ家はかつて悩み相談をしていた雑貨店だった。もう営業していないはずなのに、郵便口から手紙が、3人は戸惑いながらも返事を書いた。しかしそれらはすべて三十二年前から届いていたのだ。そして、3人はどうするのか。この話は、まだ自分が進みたい道がわからないという人にぜひよんでもらいたい。

守山高等学校 1年生

『南総里見八犬伝』 滝沢 馬琴 著 こぐれ 京 文

私がこの本をオススメしたのは、合計8人出てくる八犬士の8人の個性がみんな特徴的でとても面白いところです。女装が好きな人もいれば、戦略を考えるのが好きな人も。この個性が強い8人が、それぞれの得意な分野で活躍し力を合わせ、盗まれた名刀「むらさめ」を徳川家から返してもらおうそんなお話です。八犬士が1人ずつ登場してくるのですがその登場の仕方もとてもおもしろいので、ぜひ、読んでみてください。

長浜北星高等学校 1年生

『西の魔女が死んだ』 梨木 香歩 著

人は一人だ。だからこそ周りの人の温もりが身に染みるように感じられる。この本はそんなことを教えてくれる。登校拒否をしている中学生のまいは西の魔女こと彼女の祖母に自らの意志で生活を変えられるよう修行を受ける。魔女が自分の命と引き換えるかのようにまいの心を救っていくストーリーは読み手に己を振り返らせ、重く、かつ清々しい気持ちで死と向き合わせてくれる。日常の中の無数の哲学と出会うことのできる作品。

島先 潤 さん 守山高等学校 1年生

『博士の愛した数式』 小川 洋子 著

「ぼくの記憶は80分しかもたない」博士の背広の袖には、そう書かれた古びたメモが留められていた。彼の新しい家政婦の「私」と、その息子「ルート」が、数学で心を交わせながら、3人の日々は心温まるものになっていく。数学が苦手な人でも、博士の美しい数学に惹かれること間違いなし。ルートと博士の絆は、感動せずにはいられない。是非ともこの一冊を読んで、数学の魅力に気付いて頂きたい。

守山高等学校 2年生

『走れメロス』 太宰 治 著

私がこの本を推す理由は二つある。

一つ目は、友情の大切さを知れるからである。物語にも友情のために懸命に走るメロスの姿がある。そこから学べるからだ。

二つ目は、人としてあるべき姿を知れるからだ。邪知暴虐な王も最後は心が変わり愛と誠の力を知り、人が変わった。その姿は人間の温かさにあふれていた。

だから私は、『走れメロス』を推す。

守山高等学校 1年生

『バッカーノ』 成田 良悟 著

三百年前、錬金術師たちが悪魔を召喚して不老不死の酒をもらう。そして1930年、禁酒法時代のアメリカで起こる馬鹿騒ぎから始まったかもしれない物語。この本の特徴は、統一した主人公がいないことと、多くの登場人物の一人ひとりの目線が重なって話が進んでいくことです。時代も1700・1900・2000年代とあり、世界観の違いも面白いと思いました。ミステリーに興味がある人は1931年の鈍行編、特急編がお薦めです。

中村 謙葵 さん 日野高等学校 2年生

『浜村 渚の計算ノート』 青柳 碧人 著

この本は、心を伸ばす教科が重視され、理数科目、主に数学が教育から姿を消した世界の話です。数学を教育にとり戻すためにテロを起こす組織「黒い三角定規」に警察&1人の中学生が立ち向かっていくという内容です。黒い三角定規のテロ活動は数学になぞらえたものばかりなので、学校での数学と違い、読んでいて自然に数学に触れられるので数学が少しでも好きになるかもしれません。

守山高等学校 2年生

『「反原発」の不都合な真実』 藤沢 数希 著

「反原発。」3, 11以降マスコミは口を揃えて言い、間違っただけを流しては国民の原発に対する不安を煽った。原発を悪と決めつける国民感情は世界を地球温暖化へ導き大気汚染を進行させる。より多くの人々がより苦しく死んでいくのである。

この本は原発を全面肯定している訳ではない。ただ、正しい情報から導き出せる答えは原発はどうしても必要である、という事である。間違っただけを破壊してくれる優秀な本である。

守山高等学校 1年生

『陽だまりの彼女』 越谷 オサム 著

人と人とのつながりには様々な形がある。親子のつながり、友人のつながり、そして恋人とのつながり。70億人のなかから見つけた宝物。そんな宝物のそばにいられるだけで十分だったのに。人のつながりとは時に切なすぎるほど手離さなければならない。この本を読むとあなたもきっと身近にある大切な宝物がより一層、愛しくなるだろう。

芳野 愛 さん 東大津高等学校 1年生

『向日葵の咲かない夏』 道尾 秀介 著

S君が首を吊って死んでいた。だがその衝撃もつかの間、彼の死体は忽然と姿を消してしまう。一週間後、S君は僕の前に現れた。違うものに姿を変えて。「僕は殺されたんだ」と訴えながら。S君の死、死体消失、動物殺し…数々の謎をめぐって推理がくり広げられる。ホラーサスペンス大賞特別賞受賞、道尾秀介がおくるミステリー小説。あなたの目の前に広がる、もう一つの夏休み。

笠川 悠 さん 守山高等学校 1年生

『百年の蝶』 深月 ともみ 著

山で親に捨てられた主人公のナユタは、仲間のセンジュ達と暮らしていた。しかし、ある日突然仲間

が姿を消してしまう。生け贄にされるという仲間を助け出す為、「蝶を追え」というセンジュの伝言を元に、ナユタは旅立つ。滋賀県出身の作者が描くファンタジー。作中には、醒ヶ井の養鱒場にちなんだ、「マスの塩焼き」もさりげなく登場。さっぱりとした読み心地で、作者の地元への愛も感じられる、県民にとっては至極の作品。

西川 実佑 さん 長浜北星高等学校 1年生

『氷菓 The nice of time』 米澤 穂信 著

この本の題名は「氷菓」なのだが、作中にアイスクリームは登場しない。これは主人公が入部した古典部の文集の名前だ。だがここにもアイスクリームとの関連はない。これには大きな謎があり、主人公達はそのような身の回りの謎を解いていく。謎解きと共に彼等の青春がくり広げられ、一度に多くを楽しむことができる。現在このシリーズは5巻発行されているのだが、初めの作品の『氷菓』を読めば残りを読みたくなくなるのは間違いない。

守山高等学校 1年生

『Fate/zero 第四次聖杯戦争秘話』 虚淵 玄 著

奇跡を叶える聖杯を巡って7人の魔術師が7人の英霊を召還して競い合う究極の決闘劇・聖杯戦争。その第四次の前日譚。断片的に語られるだけだった第四次聖杯戦争の全てが虚淵玄によって書き上げられます。Fateシリーズが好きな方には勿論、まったく知らない人にもオススメの本です。少し内容が難しいですが、その分読みごたえがあり、読んでいくうちに世界観に引き込まれていくところが最大の魅力です。

彦根翔西館高等学校 1年

『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』 七月 隆文 著

みなさんは、運命の出会いがあると思いますか。これは、主人公の男の子と、男の子が一目惚れした女の子のお話です。しかし、女の子にはある秘密が隠されていました。奇跡の運命で結ばれた二人を描く、甘く、せつない恋愛小説。彼女の秘密を知ったとき、きっと最初から読み返したくなるはずです。自分は大変な人を永遠だと思っていないか。大切な人を、もっと大切にしたいくなるような、そんな素敵な一冊です。

守山高等学校 1年生

「一目惚れしました！」大学へ向かう途中高寿は、愛美に出会い唐突に恋をする。追いかけて告白すると彼女は、泣いた。そして「また明日ねっ！」と去っていく。翌日愛美は本当に高寿に会いに来る。何度もデートを繰り返す中で高寿は違和感を覚える。初めて会った時や何気ない日常で愛美が涙したのはなぜか。愛美1人で抱えこんだ秘密を知ったとき全てが明らかになる。恋を知った男女の儂い物語は、本当の愛とは何か教えてくれる。

長島 瑠南 さん 守山高等学校 1年生

『夢幻花』 東野 圭吾 著

秋山梨乃の祖父、秋山周治が殺された。現場の庭から黄色い花の鉢植えが消えていた。梨乃は、ふとした事からであった大学院生、蒲生蒼太と事件の真相をさぐっていく。

一方、息子裕太の万引き犯の汚名をはらしてくれた恩人、秋山周治の事件を担当した早瀬亮介は、単独で犯人逮捕をめざしていた。

やがて、50年前の無差別殺人、10年前の蒼太の初恋と黄色いアサガオをめぐる、ひとつにつながっていく。

守山高等学校 2年生

『Moment』 本田 孝好 著

その病院には、ある噂があった。末期患者の願いを叶えるという必殺仕事人伝説。掃除婦の「僕」も関わっていくことになる。

ひとは人生の終わりに誰を想い、何を願うのか。筆者は我々に問い掛けている。話の中で「僕」は、結構馬鹿馬鹿しいことだと答えている。しかし、その答えは死を迎える者にしか分からない。そんな患者たちの最後の願いを聞くうちに彼の心は揺れる。「僕」は、そしてあなたは何を思うのか。

永福 大暉 さん 守山高等学校 1年生

『もらい泣き』 冲方 丁 著

この本は本のタイトルからもわかるとおりにもらい泣きしてしまうような本です。そして、そんな泣ける話が 33 話あるショートストーリー集です。私がこの本をおすすめしたい一番の理由は、1つひとつの話の題名です。例えば、「金庫と花丸」や「メガホン男」などで題名だけでは、全く想像がつかないです。しかし、一度読んでみると思わずホロリと泣いてしまいます。この『もらい泣き』を手にとって、泣いてみませんか。

長浜北星高等学校 1年生

『歪 (ゆが) みの国のアリス』 狐塚 冬里 著

主人公・葛木亜莉子（あつらぎありこ）は夕暮れの学校で目を覚ましました。その目の前にはフードを被った怪しい男が。驚く亜莉子に男はチェシャ猫と名乗り、こう言うのでした。「さあ、僕らのアリス。シロウサギを追いかけてよう」人の消えた世界、妙なケモノ、妙なヒトたち。アリス（＝亜莉子）はチェシャ猫に導かれ、シロウサギを追いかけます。その果てに待つものとは…？そしてひとつの悲劇は、新たな惨劇を呼び起こす…。

長浜北星高等学校 1年生